令和4年度 陽北中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

- 1 自ら考え、主体的に学ぶ生徒
- 2 活気に満ちた、たくましい生徒
- 3 心豊かで、思いやりのある生徒

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

「聡く 強く 美しく そして、陽北中生としての誇りをもつ」を体現できる生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

社会に貢献できる日本人を育成するため、生徒一人一人の自らの良さや身に付けた力に気付かせ、自己有用感を高め学校を楽しく居がいのある場としたい。そして、それらを伸ばしていく指導のもとに、確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む教育活動の充実を図る。さらに、人とのつながりの中で互いに支え合い、人に役立つことの意義が理解できる生徒を育成する。

本校の古きよき伝統と校風を守り発展させ、保護者や地域の信頼と期待に応えることにより、生徒が陽北中学校に学ぶことを誇りに感じる学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学業指導を充実し、生徒一人一人の自己実現に向けた主体的・協働的な学習の推進と、社会との関わりの中で自分の生き方を見つめ考えさせるキャリア教育の充実を図る。
- (2) 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成に加え、学力調査等の活用と学習習慣の確立、確かな学力を育む学習指導を推進する。
- (3) 社会との連携及び協働による「社会に開かれた教育課程」を目指すとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。
- (4) 生徒一人一人の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて、GIGAスクール構想を最大限生かし、対面指導と遠隔・オンライン教育とを使いこなすハイブリッド化を推進する。
- (5) 生徒一人一人の人格を尊重し、自己有用感と思いやりの心を育成することを積み重ね、困難を乗り越えるたくましさを涵養し豊かな心を育む教育を推進する。
- (6) 生涯にわたって健康で安全な潤いある生活が送れるよう、健康教育と安全教育の充実を図り、強い体力・気力を育む教育を推進する。
- (7) 共生社会の実現を目指すため人権教育の充実と、主権者教育の充実により地域の構成員としての責任や実践力、様々なコミュニケーション能力の育成を図る。
- (8) インクルーシブ教育システムの推進に向けた特別支援教育の充実を図る。
- (9) 学校情報の積極的な発信と地域の教育資源の活用、並びに地域学校園小中一貫教育の推進と地域協議会等地域諸団体との連携、生徒の地域貢献活動の実践等による、地域とともにある学校づくりを推進する。
- (10) 学校における働き方改革を推進するとともに、教育公務員としての使命と職責を自覚し、相互に高め合い学び合う協働的な同僚性の構築と、教職員の指導力と専門性の向上を目指す。
- (11) 感染症や災害の発生等への対応や新しい生活様式における、生徒・職員の生命・身体の安全と健康に留意し、危機管理体制の維持と徹底に努める。

[陽北地域学校園教育ビジョン]

学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法規・法令や新学習指導要領及び県、市の教育行政の方針等を踏まえる。
- (2) どのように学びどのような力を身に付けるのか等「社会に開かれた教育課程」を踏まえる。
- (3) 生徒の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を大切にする。
- (4) 持続可能な社会の創り手となるよう、生徒が自分のよさや可能性に気づき自己肯定感を高めることができるよう工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校訓「聡く 強く 美しく そして、陽北中生としての誇りをもつ」をモットーに、生徒がその姿を体現できる学校づくりに向けた指導と評価の充実 <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の学習習慣の育成 <p>【児童生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感を育てる生徒指導と個別支援の充実 <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自他ともに健康で安全な生活を送ろうとする実践力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	<p>A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 各学級の学芸委員会が中心となり、学習のポイントを明確化したり、実施の呼びかけをしたり、自主的な学習に取り組ませていく。</p>	B	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答96.8% 生徒の目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・具体策を継続し、授業中や家庭学習において、主体的な取組を意識していく。</p>
	<p>A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① より積極的に生徒の良さを発見し、認め、賞賛し、自己有用感を育成することに加え、他者への思いやりの心を育成するような指導を行う。</p> <p>② 道德での振り返りや日頃の思いやりのある言動の実態などを学級だよりや学年だよりなどを通して保護者や地域に発信していく。</p>	B	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答96.8% 保護者の肯定的回答93.4% 教職員・保護者ともに目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 次年度も陽北 Good job 賞などを用いて、生徒の承認欲求を満ちし、自己有用感を高めていきたい。</p>
	<p>A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 全教職員でできている行動・良い行動を認めるなど生徒の行動を積極的に評価する。</p> <p>② 場面にあった判断を自分で行っていけるような「自己指導能力」の向上を図り、より一層、きまりやマナーを順守するような態度や思いを醸成する。</p>	A	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答92.0% 教職員の肯定的回答96.8% 生徒・教職員ともに目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・きまりの改定を行ってきたので、その改定した内容について、その後どうのようになっているかを次年度は生徒に考えさせて、自己指導能力を高めていきたい。</p>
	<p>A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① ○生徒会執行部、生活委員会による「あいさつ運動」に参加した生徒に対して「陽北 Good job 賞」等を用いて、称賛するような働きかけをし、生徒自身が自主的に活発なあいさつができるように育成する。</p>	B	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答97.5% 保護者の肯定的回答93.7% 生徒・保護者ともに目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ○・地域学校園あいさつ運動を生徒が自発的に行う形にしていることで、より活発なあいさつになってきている。次年度も継続して行いたい。</p>

目指す生徒の姿	<p>A5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 全教職員で、学校行事や部活動など、集団や個人の達成目標について、明確な達成目標を立てられるような助言・活動を工夫していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答83.3% 生徒の目標値を達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校行事や学習活動の中で、主体的に関わっていきける場を増やし、目標に向かって粘り強く取り組む。その過程や成果を認める場を充実させる。</p>
	<p>A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 保健主事を中心に保健だよりや委員会活動をとおして健康についての啓発を行い、健康に関する自己管理能力を高める。</p> <p>② 保健安全部主導で、安全教育全般を通して、思考力・判断力・表現力を育成していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答93.4% 教職員の肯定的回答87.1% 生徒・教職員ともに目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・保健だよりや生徒会保健委員会の活動を通して健康についての啓発を行い、健康に関する自己管理能力を高める。</p> <p>・保健安全部主導で、安全教育全般に取り組み、思考力・判断力・表現力を育成していく。</p>
	<p>A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 主に総合的な学習の時間の学習活動の中で、学習内容と地域・社会との関連について見出せるように支援していく。</p> <p>② 生徒会活動や学校行事の意義を理解し、目標に向かって協力し、やり遂げるように支援する。それらを通して、社会に貢献する態度を養う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答83.3% 生徒の目標値を達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間における職業、進路についての学習で地域資源を活用することで、身近なこととしてとらえられるようにする。</p>
	<p>A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① オールイングリッシュの授業実践を展開し、コミュニケーション場を意図的に設定していくなど、英語科での言語活動を工夫し、お互いに伝えあう活動の機会を増やしていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答81.5% 生徒の目標値を達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・「話すこと」が重視されることを受けて、英語を用いた表現力・コミュニケーション能力を高める。</p>
	<p>A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 地域連携教員を中心に地域人材の活用や地域の教育資源を活用するなど、取組を工夫する。</p> <p>② 総合的な学習の時間での宇都宮学を活用して、地元への関心を高め、教育活動において地域人材の教育資源の活用を推進していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答81.1% 生徒の目標値を達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・宇都宮学への取組を強化する。宇都宮のよさや地域資源等についての理解を深め、地元への関心が高められるよう、計画的に取り組む。</p>
	<p>A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 各教科の年間計画を見直し、授業展開のなかに、端末を活用する場を意図的に設定していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答100% 教職員の目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・同様の取組で、ICT機器活用場を増やしていく。</p>

目指す生徒の姿	<p>A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 今後のコロナ情勢を考慮し、高齢者との交流の在り方について、特別活動担当を中心に検討する。学級活動においても共通な題材として位置付ける。</p> <p>② 道徳の授業を通して敬老精神を涵養する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答92.2%生徒の目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ情勢の見極めと感染対策に十分考慮して、高齢者との交流活動を再開する。 ・学級活動、道徳での敬老精神の涵養を継続する。
	<p>A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間を軸とした教科横断的な計画を立て、3年間を通じた活動をしていく。</p> <p>② 全教職員が学校行事やボランティア活動をはじめ、生徒の自己有用感が高められる場面を多く設定していく。</p> <p>③ 現代社会の課題として「持続可能な社会」について、生徒への投げ掛けを意図的に行い、主体的に学びに向かえる学習方法を工夫していく。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答80.4%生徒の目標値を達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点を踏まえ、具体的な学習課題を設定し、環境問題等について考え行動できる場面を設ける。
目指す学校の姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① インクルーシブ教育の視点を意識し、SC、SCM、MS、養護教諭との連携を図り、情報共有や互いの報告、連絡、相談を徹底する。合わせて合理的配慮についての共通理解や、意見の交換の場を設ける。</p> <p>② かがやきルームについて、効果的な支援を踏襲・継続し、さらに適切な支援の充実を図る。</p> <p>③ 教育課程に特別支援教育推進委員会を位置づけ、年2回の実施をしていくほか、必要に応じ臨時委員会を開いていく。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答100%教職員の目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会やケース会議を実施し、生徒の情報共有と適切な支援の検討、組織的対応による支援を実施する。 ・通常学級に在籍する教育的支援が必要な生徒について、かがやきルーム等を利用し適切な支援を行う。
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① いじめゼロ強調月間に合わせて、「学校生活のアンケート」を実施し、現状を把握するとともに、いじめの早期発見に努める。</p> <p>② 生徒会主体のいじめゼロ集会を行い、いじめゼロ宣言やいじめゼロ標語募集など、いじめゼロに向けての活動を行い、生徒の意識向上を図る。</p> <p>③ ①、②の取組を学校HPや生徒指導だよりなどで校外に向けて発信をする機会を増やし、一層充実していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答96.1%保護者の肯定的回答89.6%生徒・保護者ともに目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートを含めた生徒指導部及び教育相談部の生徒の現状確認アンケートを定期的実施することを継続する。 ・生徒会主体でいじめゼロに向けた取り組みを活発に行うことができたので継続していきたい。 ・①・②についてHPでの発信がおろそかになってしまったので、次年度はより積極的に行いたい。

<p>目指す学校の姿</p>	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学年部会、不登校対策委員会を中心に組織的に取り組む。</p> <p>② スタンダードダイアリーの活用を図り、生徒の良い点や善い行いを称賛することで、自己有用感をさらに高めていく。また生徒の不安なども早期に発見し、対応することを継続していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答95.7% 教職員の肯定的回答96.8% 生徒・教職員ともに目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・不登校については、学校全体の課題として取り組む必要がある。現状をよく分析して、対策を立てていきたい。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 日本語指導講師を活用し、外国人生徒の母語による適切な日本語の指導を行い学校生活への適応を図る。また、生徒の日本語の力に応じた学力向上の基礎となる日本語指導を行う。</p> <p>② 日本語指導係を中心に、成果や課題を教職員間で共有し、望ましい支援の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答100% 教職員の目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・外国人生徒に対し適切な指導を行うために、日本語指導講師を活用し学校生活への適応を促す。 ・日本語指導講師と連携を図り、個々に合った教材の選択と安心してできる学習環境を整える。</p>
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校行事や生徒会活動など、生徒の自発的な活動を教職員が要所で支援し、達成感や充実感を味わわせ、自己有用感を高めていく。生徒を主体とした活動を大切に、生徒の学びの機会を提供していく。</p> <p>② ①の取組を通して、生徒の良さへの称賛を陽北Good job賞などで行うことで、教職員は常に生徒のよさを見つけ認めて伸ばし、生徒の居がいのある学校づくりを目指す。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答87.0% 保護者の肯定的回答93.6% 生徒・保護者ともに目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒が主体となり、学校行事や生徒会活動を進めることができた。生徒の自己肯定感を高めるような活動を継続して行っていきたい。</p>
	<p>A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 教科部会を充実し、授業展開の工夫や端末活用を検討し、授業力向上に努めていく。</p> <p>② 学校HPや各種たよりを通して、授業の様子や生徒の実態を発信していく。</p> <p>③ 校内授業研究会を充実させることで、教師の授業力を向上させ、生徒の学力向上を図っていく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答94.5% 保護者の肯定的回答87.8% 生徒・保護者ともに目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業力向上に関する公開授業やそれに伴う研修等、学校側の取組を家庭向けにも積極的に発信する。</p>
	<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校経営方針具現化のために、チームとしての具体的な到達目標をいくつか設定する。その実現のために自分は何をすべきかを個々の教職員評価の具体的な目標設定に策定できるようにする。</p> <p>② GIGAスクール構想に基づく端末活用を通して、教科や学年、若手ベテランのOJTを一層推進し、相互研鑽の雰囲気を高められるようにする。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答90.3% 教職員の目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校経営方針の重点目標達成に向け、各部の具体策を検討し、個々の教職員評価の具体的な目標成果として設定することを継続する。 ・端末活用を推進し、教科や学年、若手ベテランのOJTを高めていくようにする。 ・働き方改革を検討するチームを編成し、検討、実践できるようにする。</p>

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 退勤時刻宣言や「私の仕事効率化のための工夫」紹介など、個々の勤務時間と仕事効率の意識化を高める工夫をする。</p> <p>② ミライムやGIGAスクール構想に基づくICTの活用による業務の効率化や改善を推進するチームを編成し、校内研修など実践する。</p>	B	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答45.2% 教職員の目標値を達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・働き方改革を検討するチームを編成し、日常業務の見直しや内容の改善、ICT活用による効率化などを検討する。教職員が主体的に働き方改革を意識する場と雰囲気醸成する。</p>
	<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① ○ 年2回のあいさつ運動など、コロナの状況を踏まえながら、生徒の自主的な参加を促していく。</p> <p>② ○ コロナの状況を踏まえながら、小学校6年生の中学校訪問を実施していく。</p>	A	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答67.4% 教職員の肯定的回答87.1% 教職員は目標値を達成した。生徒は達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ○・どのような場面で小中の連携が図れているのか、関連する教科内で明確化する。</p>
	<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 地域住民の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「地域未来塾」や1年「働く人に学ぶ」での講師など、地域の教育力を生かした活動を地域協議会と連携して展開し、生徒の参加を一層促していく。</p> <p>② ①の取組や成果を各種たよりや生徒の委員会活動などで、特に校内において積極的に発信する。</p>	A	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答78.1% 地域住民の肯定的回答86.7% 地域住民は目標値を達成した。生徒は達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・「地域未来塾」「地域未来会議」や1年「働く人に学ぶ」など、地域協議会との連携を継続し、生徒の参加する機会を拡充し、その取組や成果を生徒会活動などを通して生徒側から発信して関心を高められるようにする。</p>
	<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 1年「働く人に学ぶ」や2年社会体験学習など、地域の職業人や事業所への理解を一層深められるようにする。</p> <p>② 望ましい職業感の形成や主体的に学ぶ進路学習の実践など、キャリア教育の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答78.1% 生徒の目標値を達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・社会体験学習や「働く人に学ぶ」など、地域の職業人や事業所への理解を一層深められるようにする。 ・取組やその成果をより意識できるよう、総合的な学習の計画や振り返りを丁寧に行うようにする。</p>
	<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 安全教育係を中心に、毎月1回の安全点検を組織的に実施するとともに、速やかに修繕に取り組む。</p> <p>② 国、県、市のコロナ対策に迅速かつ適切に対応し、情報共有と本校としての対策や取組を組織的に行う。</p>	B	<p>【達成状況】保護者の肯定的回答92.8% 保護者の目標値を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・一人一人の教員が日頃から安全点検を心がけ、安全教育係を中心に組織的に対応する。 ・国、県、市のコロナ対策に迅速かつ適切に対応し、情報共有と本校としての対策や取組を組織的に行う。</p>

	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 授業における一人一台端末の活用を各教科で検討、進めていく。 ② 学校HP、学校だより、学習だより等で授業の様子など適宜発信していく。	A	【達成状況】生徒の肯定的回答89.0%生徒の目標値を達成した。 【次年度の方針】 ・授業で使用するソフトやアプリについて、教科の特性や学習場面に応じて明確化する。
本校の特色	B2 学校全体で「校訓」を共有化し、生徒同士の連帯感を高めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 本校の教育活動の指標、伝統、そしてコロナ禍においても、個々が、学校が元気に力強く進んでいくためのスローガンとして、様々な活動や取組において啓発していく。 ② 特に、「より主体的な生徒会活動」、「自己指導力育成を図る生徒指導」、「GIGAスクール構想に基づくICT活用能力向上」において、新たな目指す生徒像として校訓を強調し、その実現に向けて意識を高めていけるようにする。	A	【達成状況】教職員の肯定的回答87.1%教職員の目標値を達成した。 【次年度の方針】 ・「より主体的で自己判断ができる、そしてたくましく成長する生徒」を新たな目指す生徒像として、校訓と結びつけ、強調することで、その実現に向けて生徒および教職員の意識を高めていけるようにする。
課題等	B3 生徒は、校訓「聡く強く美しく」のもと、力を合わせて、学校行事をはじめ様々な活動に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 様々な活動や取組において、「校訓」を本校の伝統、目指す生徒像として実施することを啓発していく。生徒会活動や端末を活用した集会等を実施していく。 ② 校内各所への掲示、各種通信など周知を図り、充実させていく。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答91.6%生徒の目標値を達成した。 【次年度の方針】 ・様々な活動、取組において、「校訓」を意識できるよう、特に計画や振り返りににおいて啓発していくようにする。 ・生徒会活動や校内各所での掲示、各種通信などでこれまで以上に効果的な周知を工夫していくようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・昨年度から2回目のWebによる回答で、回答率は昨年度同程度の7割で、肯定的な回答が多く、肯定的回答割合が90%以上の項目は全27項目中16項目であった。数値指標を完全に上回ったのは18項目、回答対象が2つの場合でどちらかが上回ったのが2項目だった。また、前年度と比較し肯定的回答割合が向上したのは16項目で全回答の51%が向上した。市内中学校の平均を上回った項目は生徒が15項目中9項目、保護者は6項目全て上回った。
- ・市の平均より5ポイント以上肯定的評価が高かった項目は、生徒のA10・25、保護者のA14とA18、5ポイント以上低かった項目は、教職員のA6とA20、地域住民のA22・23であった。
- 今年度もコロナ感染拡大防止として、小中一貫教育・地域学校園の取組で実施できなかったものが多かったが、小中合同あいさつ運動を昨年度同様1、2学期とも3日間ずつ、計6日間実施することができた。生徒の希望参加をとり充実した活動が展開できたが、2回目ということで新鮮味が欠けた分、評価に影響したと思われる。生徒がより主体的に実践していく意識（意欲）醸成のための方策（実践方法・ふり返り・周知のしかたなど）を工夫し、今後の発展につなげたい。次年度以降もコロナ対策を万全にし、学校経営における重点課題として小中学校間の連携を密にして、実践していくとともに、取組の様子や成果を一層発信していきたい。

7 学校関係者評価

- ・いろいろな地域活動を通して、生徒が地域の方々と触れ合う機会が多いのは、素晴らしいと思う。
 - ・生徒、教員、保護者・地域、三位一体感が評価につながっていると思う。概ね市全体の平均値より上回っているということは、良いマネジメントができていているということではないか。
 - ・A4・6・8の生徒の回答が高い。自信を持ってがんばっている証であろう。
 - ・保護者の回答者は、地域の回答者よりも実際の状況が分かっていると思われる。その肯定回答が高いのは良いことだ。
 - ・A12「いじめ対応」教職員は100%だが、保護者・地域は90～95%となっている。その差は何か。
 - ・A17「勤務時間」について、職員の肯定回答が低く職員の健康も心配。部活動の外部委託の状況はどうか。教職員の勤務の見直しについては検討していかなければならない。
- ・小中連携については、小学校でも上昇してきているので良いと思う。
- ・今後も感染対策に配慮しながら、今後も学校園内や地域において連携・協力しながら健全育成に取り組んでほしい。
 - ・質問文が「しっかりと」「努めている」など判断基準があいまいで答えにくい表現があるので改善できるとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・昨年に引き続き、コロナ禍で学校教育活動ができなかったり制限があったりしたものも多かったが、学校評価は昨年度同様全体的に良かった。昨年度よりさらに向上できたり、多くの項目で市の平均を超えることができたりした。コロナ禍においても学びを止めず、全ての学校行事や活動に工夫と配慮を講じてきたこと、それらの取り組み方や配慮などをさくら連絡網等で周知してきたこと、成果を学校だよりをはじめ各種たより等で広めてきたことが功を奏していると思われる。
 - ・ただ、A9（宇都宮のよさ）とA12（持続可能な社会）は、総合的な学習の充実や地域協議委員との話し合い活動（地域未来会議）でSDGsについて意見交換ができたことなどから昨年度より向上できたが、達成目標まではもう少しである。総合的な学習の時間や学級活動での明確な位置づけと、より充実した実践を継続するとともに、各教科での指導や生徒会活動などで、SDGsの視点を踏まえ具体的な学習課題を設定する場面を一層設けるようにしたい。
 - また、A20（働き方改革）は、肯定的評価が大きく下がっており、その原因や取組を分析、反省し、次年度の重点課題とししっかりと取り組んでいかなければならない。働き方改革を検討するチームの編成、検討、実践など、教職員が主体的に働き方改革を意識する場と雰囲気醸成を図りたい。
- ・交流活動や広報活動など今年度できなかったことを、検討し実践に向けて準備をする。特に、コロナ禍でこれまでできなかった諸活動が、情勢に応じて再開に向かうにあたって、その再開のあり方や改善などしっかり検討、準備、実践していくことで新たな継承としていけるようにする。